

リニア駅周辺整備基本計画 策定にあたっての考え方

飯 田 市

平成28年12月22日

リニア駅周辺整備基本計画策定にあたっての考え方 目次

第1 リニア駅の概要

1. リニア中央新幹線の概要
2. リニア駅の位置、周辺の状況
 - (1) 駅設置予定地
 - (2) 駅周辺の状況

第2 リニア駅周辺整備区域の整備方針

1. リニア駅周辺整備を検討する区域
2. リニア駅周辺の目指す姿（基本理念）
3. アイデア募集
4. リニア駅周辺整備区域の整備コンセプト
5. リニア駅周辺整備区域内の施設

6. リニア駅周辺施設の整備方針

- (1) 交通広場
- (2) パーク&ライド駐車場
- (3) 道路
- (4) 交流施設
- (5) 魅力発信施設

7. 高架下空間の施設配置方針

8. 環境・景観の整備について

9. 今後の進め方

10. リニア駅周辺イメージ図

第1 リニア駅の概要

1 リニア中央新幹線の概要

H27基本構想

- リニア中央新幹線の開業により、リニア駅が設置される飯田市から東京都心までの所要時間が約45分（現在約4時間）、名古屋まで約27分（同約2時間）となり、時間的距離が大幅に短縮されます。
- 国際空港への所要時間も大幅な短縮となり、中部国際空港まで約70分、羽田空港まで約80分、成田国際空港まで約125分と見込まれます。
- 「リニア駅周辺整備基本構想」において、長野県駅の一日当たりの乗降客数を6,800人と推計しています。



出典：リニア駅周辺整備基本構想（H27.6月）

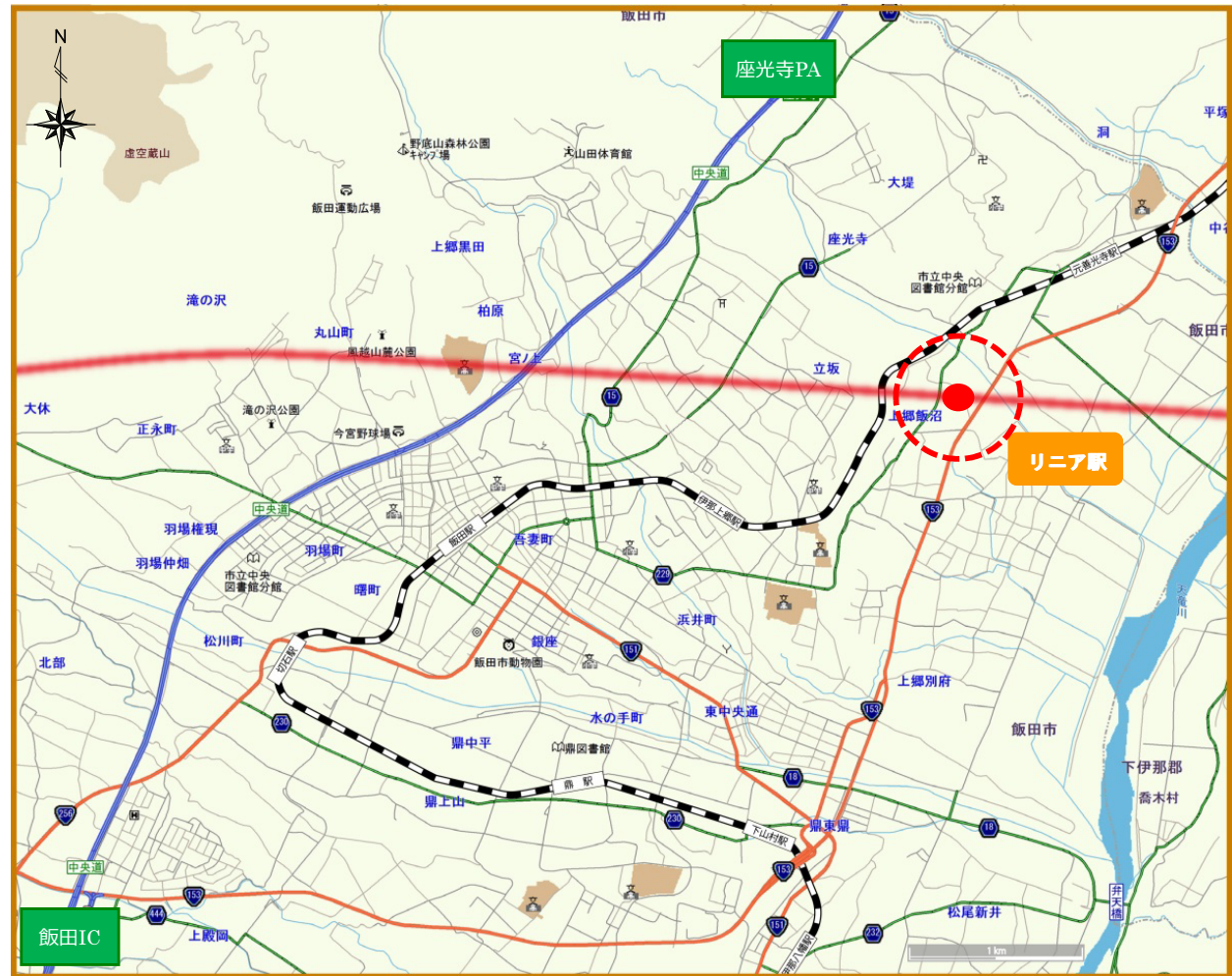
第1 リニア駅の概要

2 リニア駅の位置、周辺の状況

H27基本構想

(1) 駅設置予定地

- リニア駅の設置予定地は、飯田市上郷飯沼地区で、中心市街地から北東約3 kmに位置します。
- 駅舎は、東に国道153号、西に県道市場桜町線、北に一級河川土曽川、南に市道五郎田線に囲まれたエリア内に整備される予定です。
- 中央自動車道座光寺パーキングエリアへのスマートインターチェンジ（SIC）の整備、SICとリニア駅を結ぶ座光寺上郷道路の整備が計画されています。



出典：リニア駅周辺整備基本構想（H27.6月）

第1 リニア駅の概要

(2) 駅周辺の状況

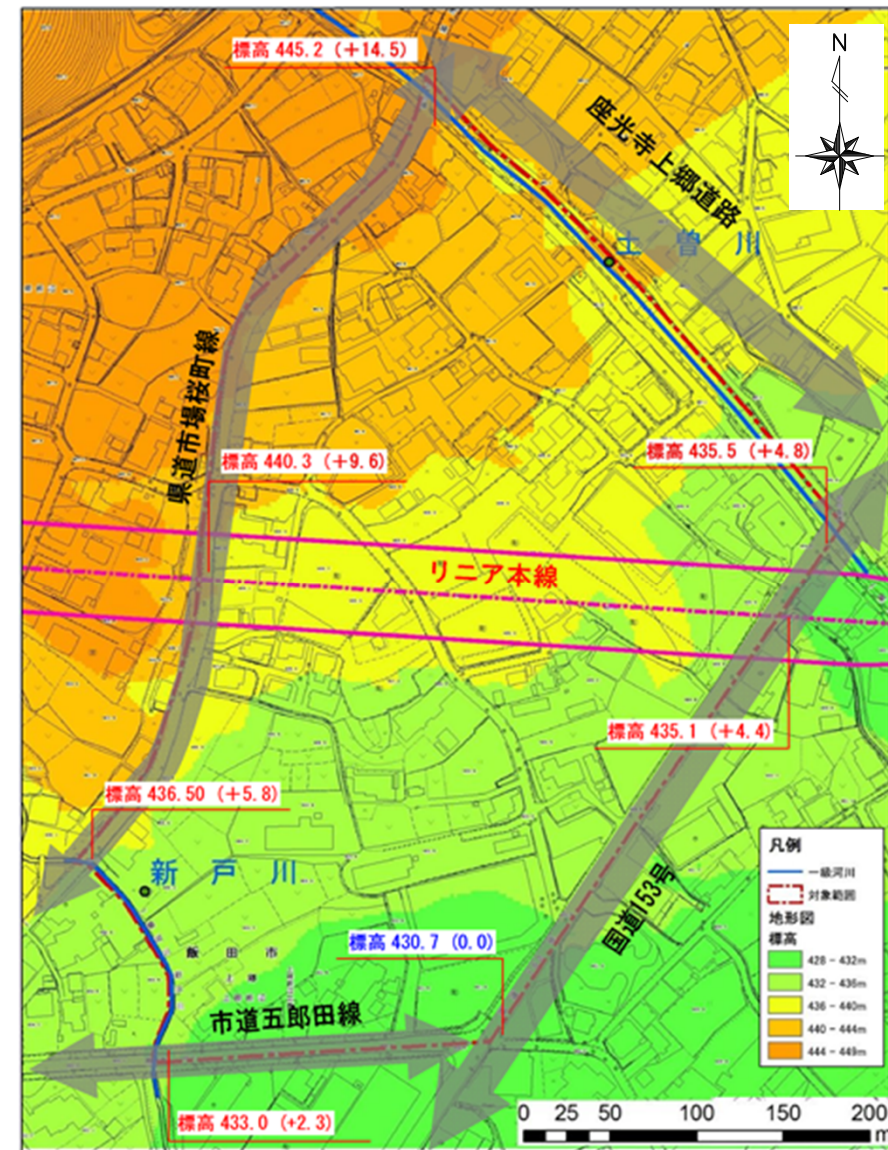
- 駅周辺地域は北から南にかけて下り傾斜の地形となっており、駅西端部にはJR飯田線が位置しています。

H27基本構想 H27検討会議
- 国道153号の沿道に商業施設が立地し、その背後に農地・林地が点在しているものの、住宅、マンション、アパート等の住居系の土地利用が進んでいます。
- 野底山に象徴される美しい自然に恵まれ、黒田人形浄瑠璃や飯沼諏訪神社の御柱祭など地域の伝統文化が今も伝承されている地域です。

H27基本構想
- 都市と自然が調和した住みよい環境づくりを目指すとともに、リニア駅周辺に新たな市街地が拡散的に形成されないよう、今ある良好な住環境や豊かな自然への影響を出来る限り小さくする必要があります。

H27基本構想
- 上郷飯沼北条地区を東西に横断する形で駅が設置されるため、地域コミュニティの維持に最大限配慮する必要があります。

H27基本構想



出典：第3回リニア駅周辺整備検討会議資料（H27.12.22）

第2

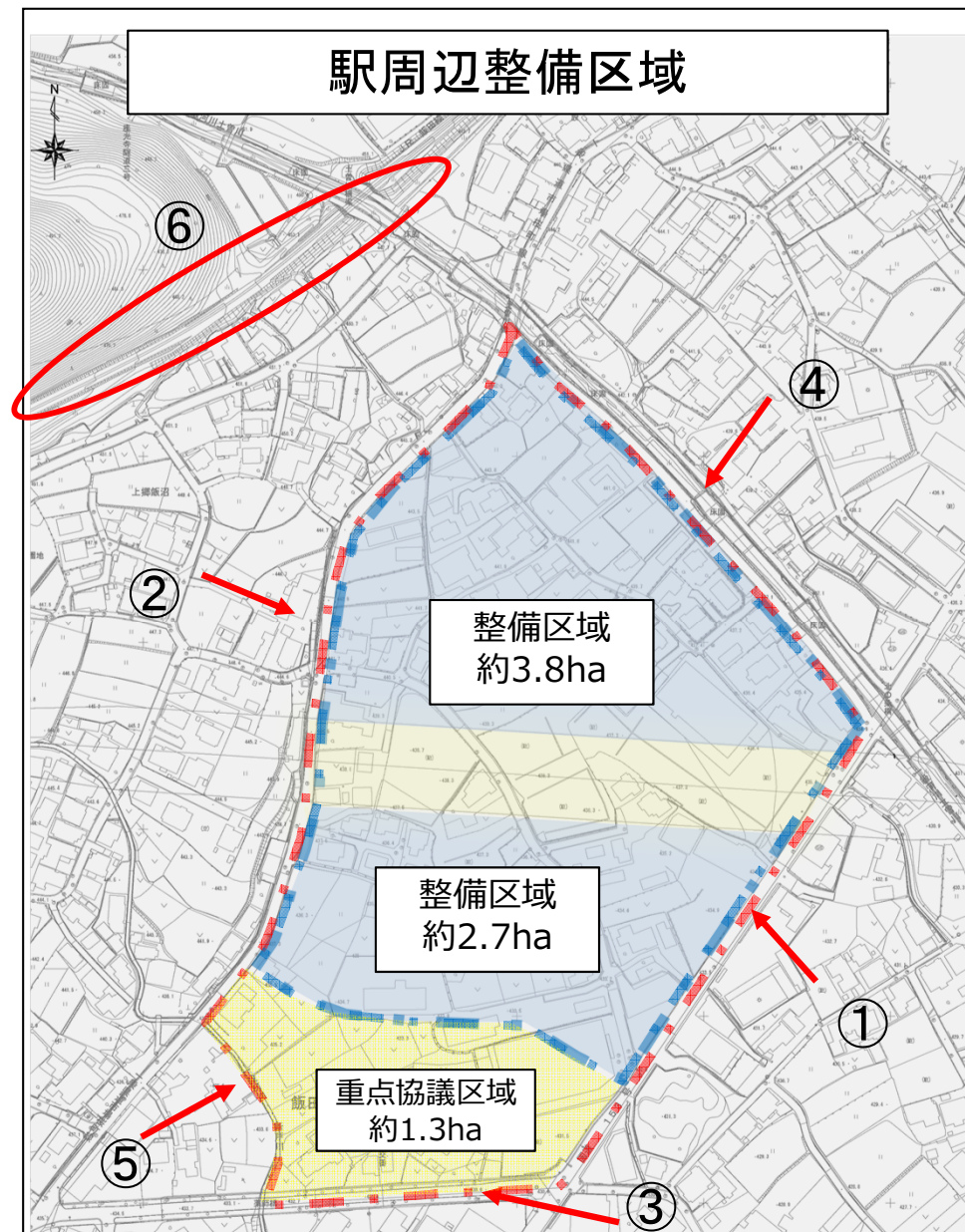
リニア駅周辺整備区域の整備方針

1 リニア駅周辺整備を検討する区域

H27検討会議

- 基本計画では、リニア駅ができる位置や地理的条件等を考慮し、右図の①～⑤の範囲内のうち約6.5ha（駅部除く）を「整備区域」として検討します。
- 「整備区域」とは、高度なトランジットハブ機能、魅力発信機能及び交流機能を配置するため、公共事業として面的に利用する範囲とします。
- JR飯田線の乗換新駅を⑥の位置で検討するとともに、乗換新駅とリニア駅の結節に必要な施設の整備も検討します。
- 「整備区域」南側約1.3haは、土地利用計画における重点協議区域とします。

①国道153号、②県道市場桜町線、③市道五郎田線、④一級河川土曾川、⑤一級河川新戸川に囲まれたエリア（駅部の面積を除く約7.8ha）



出典：第5回リニア駅周辺整備検討会議資料（H28.3.14）加筆修正

第2

リニア駅周辺整備区域の整備方針

2 リニア駅周辺の目指す姿（基本理念）

H27基本構想

ローカル

グローバル

ゲートウェイ

信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口

- 信州や伊那谷の持つ豊かな個性（豊富な自然や美しい風景、伝統、文化など）を大切にし、さらに高めることで世界を惹きつける魅力を育み、リニアを通じて世界へ発信していきます。

<目指す役割>

- 県内の各地域をつなぐ交通結節点になるとともに、地域の多様性を活かして豊かな暮らしを実現する持続可能なまちづくりに向け、「拠点集約連携型都市構造」における一つの拠点である「広域交通拠点」としての役割を果たします。
- 長野県の南の玄関口として、信州・伊那谷らしさを感じられる地域の魅力を発信すると同時に、来訪者を迎え入れる場、地域の人々が集う場として、多様な交流の起点となることを目指します。

第2

リニア駅周辺整備区域の整備方針

3 アイデア募集

H28検討会議

- 平成28年4月から5月にかけて、リニア駅及び周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア募集を行い、合計1,192件のアイデアを頂きました。このうち四つの部会で検討を行ったのが以下のものです。
- これらのアイデアの検討を加味した上で、基本計画の考え方を整理しました。

◎ リニア駅・駅周辺・交通広場・二次交通に関する主なアイデア

- ・ 北側にトランジット施設、南側に交流施設を整備
- ・ コンコースを2階層にし、交通広場を2階部分に
- ・ 国道153号・座光寺上郷道路から立体交差で進入
- ・ 緑化された平面駐車場
- ・ 飯田線乗換新駅の建設
- ・ バリアフリー化
- ・ ラウンドアバウトの導入
- ・ Wi-Fiの整備
- ・ 自然を生かした駅前広場（ビオトープ等）の整備

◎ 観光・交流施設に関する主なアイデア

- ・ 観光案内・市町村PR施設、魅力発信（アンテナショップ）の建設
- ・ 地元食材を利用した飲食店・食堂、利便施設（銀行・コンビニ・喫茶店）の建設
- ・ イベント広場の建設
- ・ 展望台・展望デッキの建設
- ・ 外国人向けコンシェルジュの配置

4 リニア駅周辺整備区域の整備コンセプト

1. 機能的でコンパクトな駅空間
2. 伊那谷らしさを感じられる駅空間
3. 自然との調和を目指した駅空間
4. 地域コミュニティの拠点となる駅空間

1. 機能的でコンパクトな駅空間

- 駅を訪れる人々が、天候を気にせず利用できる便利でコンパクトな駅空間
- 歩行者や車利用者もアクセスしやすく、ユニバーサルデザインで使いやすい駅空間
- 乗り換えや待ち合わせも便利で快適に過ごせる駅空間

2. 伊那谷らしさを感じられる駅空間

- 美しい山並みや日本の原風景とも言える里山の風景を眺望できる駅空間
- 来訪者を信州・伊那谷各地へ誘い波及効果を高めるため、地域の魅力や情報を発信する駅空間
- 信州・伊那谷の地場産品や伝統芸能等に触れられる駅空間

3. 自然との調和を目指した駅空間

- 多面的な機能を持つグリーンインフラ（※）が整備された駅空間
- 新たに作り出される景観と伊那谷の美しい自然が調和した駅空間
- 再生可能エネルギーの活用や低炭素社会の取り組みの場となる駅空間

4. 地域コミュニティの拠点となる駅空間

- 地域住民がより暮らしやすく、日常生活で便利に使える駅空間
- イベントや行事など地域住民がコミュニティ活動の場として活用できる駅空間
- 非常時には防災機能を果たし、地域住民が安全に避難できる駅空間

※グリーンインフラとは、自然の持つ力や機能を活かし、「緑」を都市の中に上手に組み込み、都市基盤として機能させようとする考え方。従来のインフラのような特定の目的による建設・活用と異なり、環境・経済・社会等の多面的な便益が得られることを想定している。

5 リニア駅周辺整備区域内の施設

- リニア駅周辺を整備するにあたり、基本構想やこれまでの検討を踏まえ、緑地等を確保し周辺環境との調和がとれた駅空間とするためには、おおむね次の施設が必要と考えています。

駅南側 約2.7ha

交通広場

パーク&ライド駐車場

道路

交流施設・広場

魅力発信施設

調整池

駅北側 約3.8ha

交通広場

パーク&ライド駐車場

道路

調整池

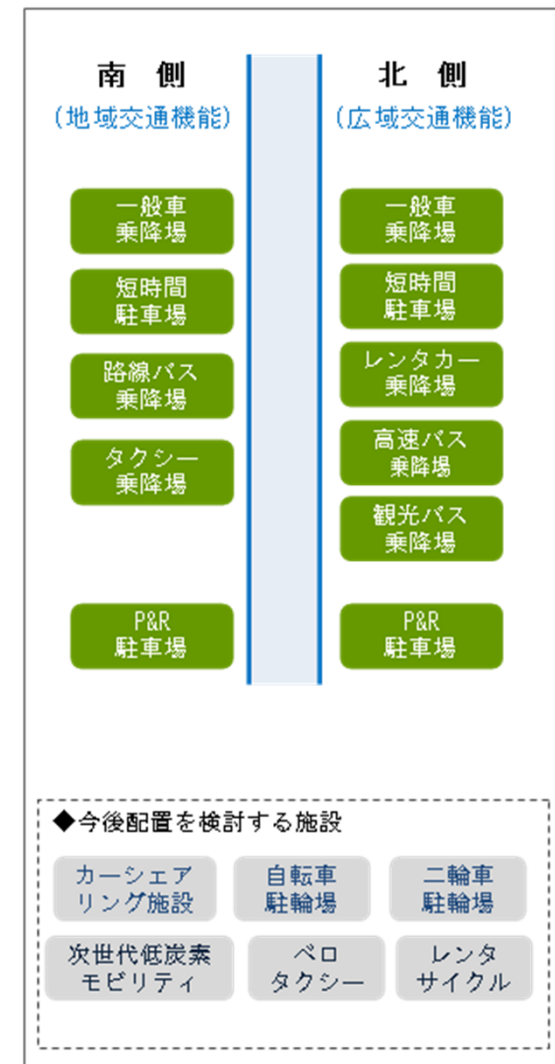
6 リニア駅周辺施設の整備方針

H27基本構想

H28検討会議

(1) 交通広場

- リニア駅の南北それぞれに、適正な規模の交通広場を整備します。
- 座光寺S I Cからのアクセス道路である座光寺上郷道路に近い駅北側の交通広場には、広域的に移動する交通手段の乗降場を配置します。
- コンコースは標高436mの位置に定め、各交通手段の乗降場所は出来るだけコンコースに近い場所に配置します。
- 雨や雪等の天候でも快適に移動できるよう整備します。
- 車と歩行者の動線を明確に分け、安全性を確保するとともに、ユニバーサルデザインに配慮した構造とします。
- 駅利用者にとって分かりやすい案内表示を適切な場所に配置します。



■ 交通広場機能配置の考え方

出典：第6回リニア駅周辺整備検討会議資料
(H28.6.6)

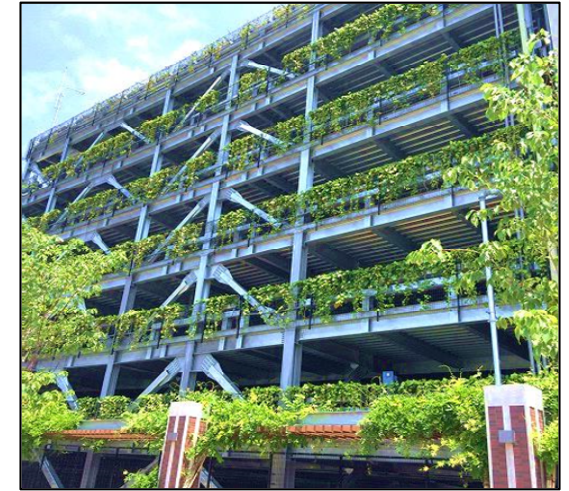
第2 リニア駅周辺整備区域の整備方針

(2) パーク&ライド駐車場

H27基本構想

H28検討会議

- リニア駅は長野県の南の玄関口であるとともに、三遠南信地域の北の玄関口でもあることから、南北それぞれ適切な規模のパーク&ライド駐車場を整備します。その規模は利用者推計や他の新幹線駅の駐車場を踏まえ、全体で750台とします。またグリーンインフラとしての整備に努めます。
- パーク&ライド駐車場の一部は立体駐車場とし、コンコースまで天候を気にせずスムーズに移動できるよう整備するとともに、景観等にも配慮した構造とします。



■ 立体駐車場の事例
(東京都内)

(3) 道路

H27基本構想

H28検討会議

- リニア駅へのアクセス性を高めるため、県道市場桜町線と国道153号を結ぶ道路をリニア駅南側に整備します。
- 周辺道路からのアクセスや歩行者・自転車の動線に配慮して整備します。



■ 道路整備の事例
(安曇野市 穂高駅前通り)

第2 リニア駅周辺整備区域の整備方針

(4) 交流施設

H27基本構想

H28検討会議

- リニア駅利用者だけでなく、伊那谷や地元住民も利用できる交流施設や広場を整備します。
- 信州・伊那谷の特徴的な文化に触れたり、豊かな自然空間を演出した広場でくつろいだりイベントを楽しんだりできるよう整備します。
- 災害時には防災機能を果たすことができるスペースとしても活用します。



■ 交流広場の事例
(JR日向駅・宮崎県)

(5) 魅力発信施設

H27基本構想

H28検討会議

- 座光寺SICが設置される事も踏まえ、リニア駅利用者や地域の住民も集える常に賑わいのあるハイウェイオアシス的な魅力発信施設を整備します。
- 信州・伊那谷を代表する特産品や食材・郷土食、伝統文化・芸能等、地域の魅力の紹介や体験を通じて、来訪者が各地を訪問したくなる仕掛けづくりを行います。
- 施設の運営・管理や魅力発信の手法については今後検討します。



■ 魅力発信の事例
(長野県HP)

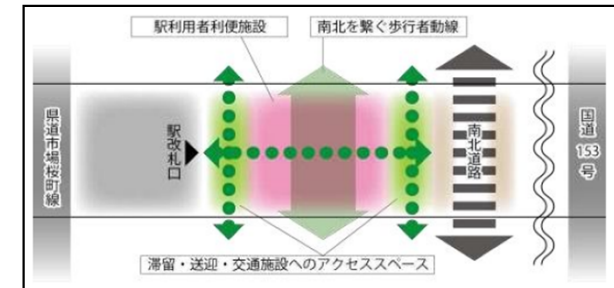
第2 リニア駅周辺整備区域の整備方針

7 高架下空間の施設配置方針

H27基本構想

H28検討会議

- ・ 信州・伊那谷の観光情報や交通情報など入手できる総合案内所等の設置を検討します。
- ・ 待合室、ラウンジ、コンビニ、デラックストイレ、フードコート、お土産販売、A T M等を整備します。フリーWi-Fi等、駅利用者にとって便利なサービスの提供を検討します。
- ・ 駅の南北をつなぐ南北道路を整備します。



■ 駅高架下空間イメージ図

出典：リニア駅周辺整備基本構想（H27.6月）

8 環境・景観の整備について

H27基本構想

H28検討会議

- ・ 立体駐車場の屋上やリニア駅の周辺に、伊那谷の山並みを眺望できる「見晴らし広場」や「眺望の丘」等の整備を検討します。
- ・ 自然環境への影響を出来る限り軽減するとともに、多面的な機能（気温調節・景観・排水等）が期待できるグリーンインフラの導入に取り組みます。
- ・ 再生可能エネルギーの活用等、低炭素化に取り組み、自然の恵みを享受する伊那谷と環境モデル都市・飯田をアピールします。
- ・ 散策路やビューポイント等を整備するなど、周辺環境を活かした施設整備を検討します。
- ・ リニア駅周辺整備区域の近隣地域を含む、環境・景観の整備方針を今後策定します。



■ グリーンインフラの事例
（フランス・ストラスブール）

第2 リニア駅周辺整備区域の整備方針

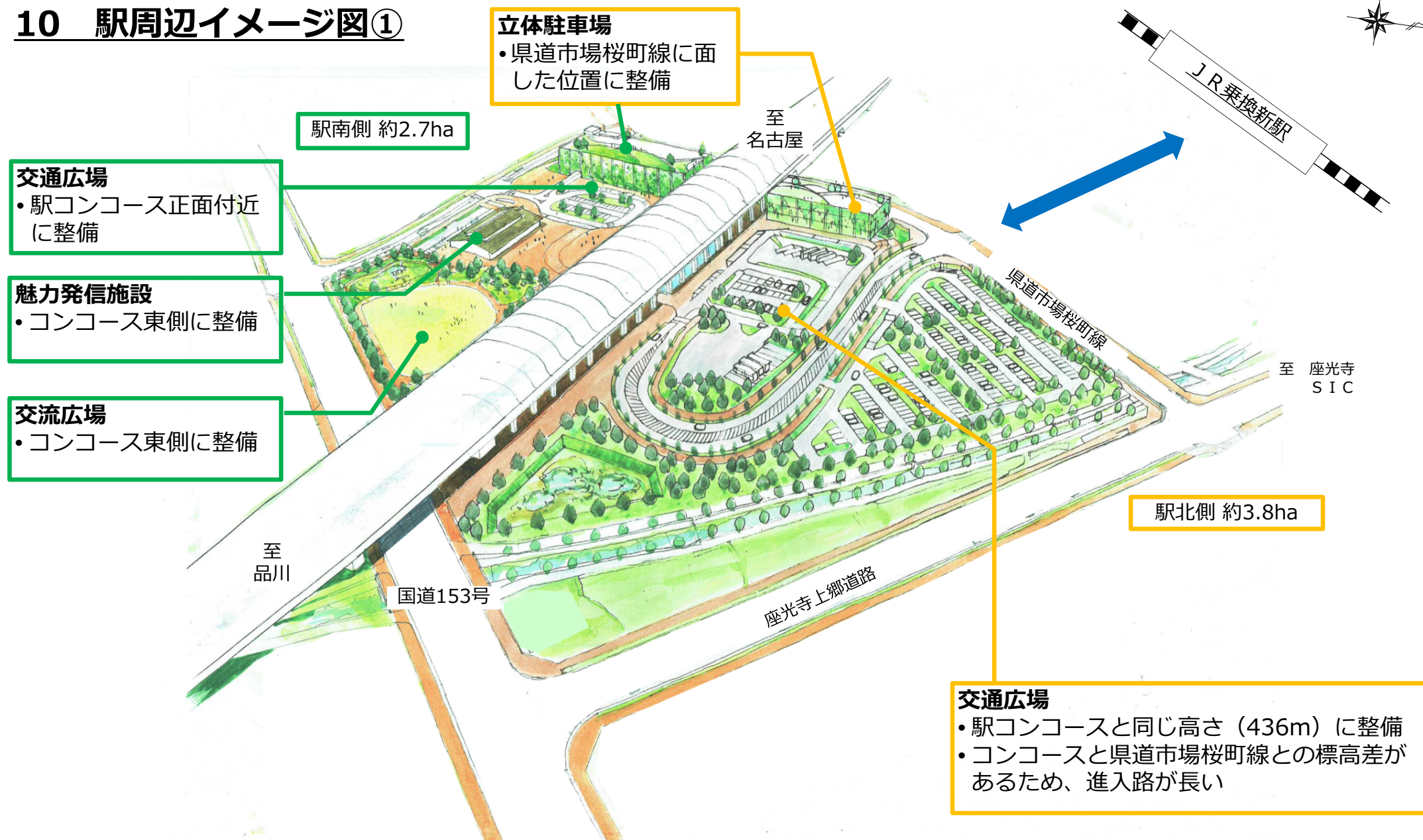
9 今後の進め方

- リニア駅周辺整備基本構想やアイデア募集で提案された市民意見を踏まえながら、四つの部会で検討した結果を説明するため、市民説明会等を開催します。
- 市民説明会等で頂いた意見を考慮しながら、基本計画（案）を策定します。
- 基本計画策定後も、リニア駅周辺整備を進める中で出てくる課題に対し、ワークショップ等の市民参画の機会を設けて、市民の皆様の意見を反映していきます。

第2

リニア駅周辺整備区域の整備方針

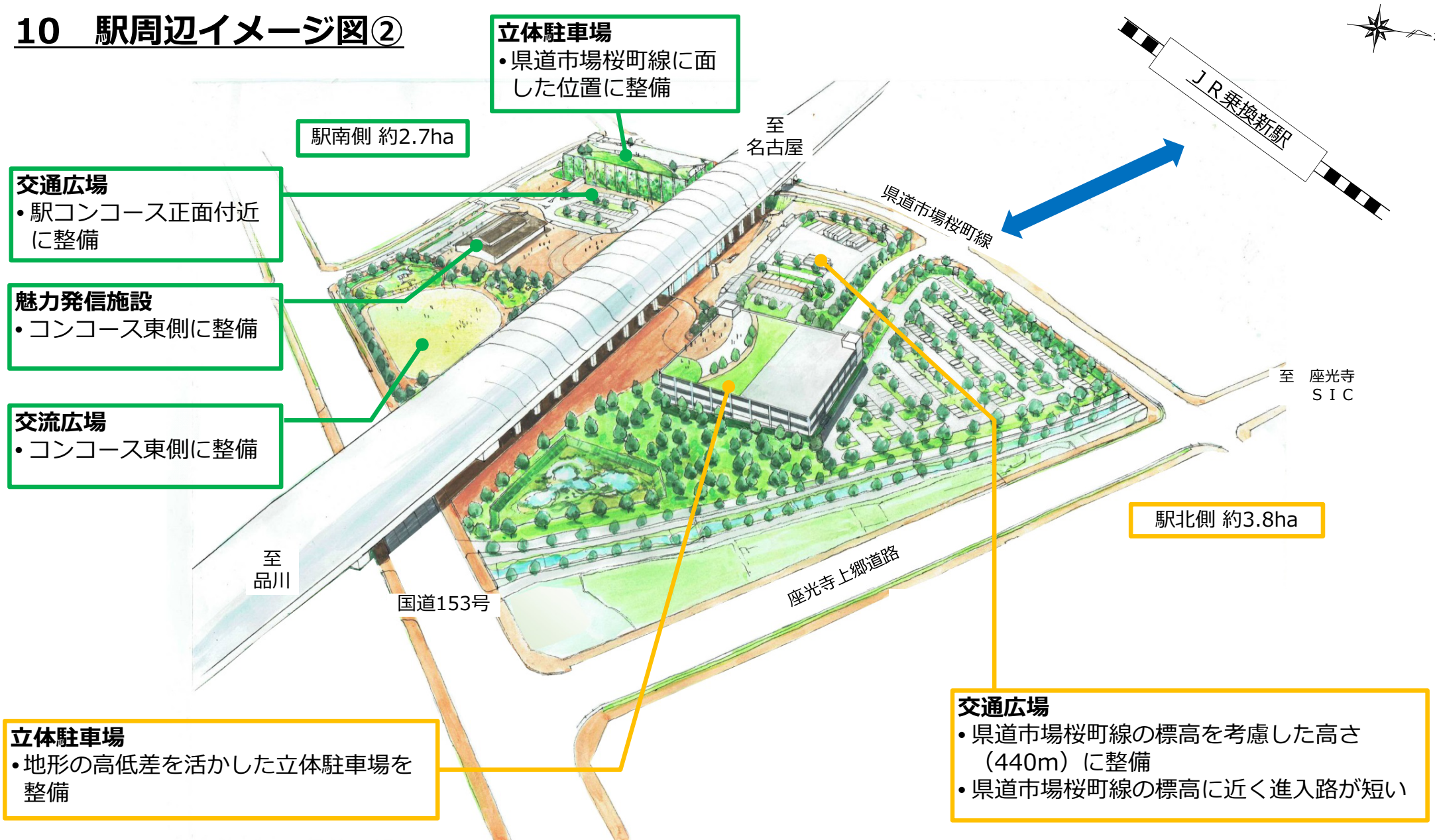
10 駅周辺イメージ図①



第2

リニア駅周辺整備区域の整備方針

10 駅周辺イメージ図②



第2

リニア駅周辺整備区域の整備方針

10 駅周辺イメージ図③

交通広場

- ・駅コンコース出口西側に整備

駅南側 約2.7ha

魅力発信施設・交流広場

- ・駅コンコース出口東側に整備

立体駐車場

- ・駅本線のそばに整備

立体駐車場

- ・地形の高低差を活かした立体駐車場を整備

交通広場

- ・県道市場桜町線の標高を考慮した高さ（440m）に整備
- ・県道市場桜町線の標高に近く進入路が短い

